

Eureka V

六年制通信 No.28 平成 29 年 12 月 22 日 (金) 号

Today is the first day….

またあつという間に年の瀬になってしまった、というのが正直な感想です。早いなあ、一年が。毎年のように速度を上げて一年が過ぎていく気がします。いろんなことがあったような、それでいて毎日が同じようにただ何となく過ぎてしまったような…。たくさんの計画を立て、その多くを実行できないままの一年だったような…。この頃の風の寒さに、中原中也の「ああ おまえは何をして来たのだと… 吹き来る風が私に云う」（「帰郷」の最後の一文）という詩が頭をよぎります。冷たい風が、この一年の反省を促しているようで、一層寒く感じてしまいます。

学校は始まりが春ですから、その年度の終了は 3 月です。ですから年末とはいえ年度途中なのですが、やはり年末はその一年を振り返り、反省をして、元日からまた新しい一年を迎えるに適していると思います。昔からお正月は特別ですからね。こういった区切りは、あった方がいいと思います。静かな一人きりの時間を少し作って、皆さんもこの一年の自分の成長を追ってみるといいでしょう。ダメだったところの反省だけでなく、成長したところは必ずあるのですから、その部分を静かに目を向け自覚してほしいと思います。できるようになったことを大切にしてほしいからです。そしてまた新しい一日を、これも必ずやってくるのですから、元よく生きていかななくてはなりません。それが幸いにしてこの世に生を受けた者の責務ですよ。

昨日はすでに過ぎ去り、今日もすぐに過去になります。ゲーテの言うように「今日という日にまさるものはない」のかも知れません。そう思って精一杯生きよということでしょう。あるいは、若い君たちにはガンジーの「明日死ぬと思って生き、永遠に生きると思って学びなさい」の方がふさわしいかな。私もこちらの方が好きですね。ただ、この言葉を実践するのは簡単なようで非常に難しいことです。文字通りに明日死ぬと考えたら、実際は勉強どころではないだろうしね。このガンジーの言葉は、要するに今日を大切に生き、ゆっくりと生涯をかけて学び続けなさいということでしょう。皆さんには違和感があるかもしれませんが、私にはラテン語の「悠々として急げ」

フェスティナー レンテ
(*festina lente*) と同じように思います。同じラテン語に「今日という日を摘み取れ」

カルペ ディエム
(*carpe diem*) つまり「汝の今を生きよ」と解釈してよい言葉があります。これはロビン・ウィリアムズ主演の『いまを生きる』(原題 *Dead Poets Society*) という映画で重要なモチーフとして使われています。これは冬休みに観てほしい映画だなあ。

英語には **Today is the first day of the rest of your life.** という言葉があります。訳すと「今日という日は残りの人生の最初の日である」ですね。この言葉も、一日のスタートに思い起こせば、よし頑張って自分の人生を歩もうと思えるのではないのでしょうか。君たちは **the rest of your life** すなわち「残りの人生」をたっぷり持っています。朝起きたら、毎日がそのスタートです。そして、それが永遠に続くと思って学び続けるわけですね。もちろん、過去をすべて忘れるわけにはいきません。正しく反省しなければ成長はないのですから。今日という日は昨日までの反省の上に立って生きていくのは当然のことです。同じ失敗を、人はしてしまうものですが、その度に反省していけばいい、私はそう思っています。でもただ反省反省と言われても、難しいですよ。テストの結果が悪かった、反省しようなどというのは、むしろ試験勉強の点検であって反省ではないでしょう。反省するといっても、本当は難しいのですよ。

論語には有名な文句がありますね。「吾日に吾が身を三省す。人のために謀りて忠ならざるか。朋友と交わりて信ならざるか。習はざるを伝へしか」という、三省堂という社名のもととなった箇所ですね。意味は「私は一日に三つの反省をする。人から相談を受けた時、誠意を尽くさないことはなかったか。友との交際において言行が一致しないことはなかったか。自分でも十分に習熟していないことを人に教えはしなかったか」でしょう。「三省」の解釈は「日に三度吾が身をかえりみる」とする説もあるようですが、私は一日の終わりに三つの項目に照らして吾が身を反省するという意味に解釈しています。また、昔の海軍兵学校には五省というのがありました。「至誠に悖るなかりしか。言行に恥づるなかりしか。氣力に缺くるなかりしか。努力に憾みなかりしか。不精に亘るなかりしか」、この五項目です。わからない言葉は、辞書で引いてごらんください。論語も同じですが、誠実だったか、最善の努力をしたのか、そういった項目が入っているということは、実はこれらは私たちには実行が難しいという証でもありますね。では皆さん、よいお年を。

冬休みのおすすめ

・浅田次郎 『勇氣凛々ルリの色』（講談社文庫）

エッセイ集です。20年ほど前に単行本で読みましたが、いや笑ったなあ。このシリーズは4冊すべて講談社文庫に入っています。この著者の自衛官時代の失敗談が非常に面白かったのを覚えています。あるとき休暇を終えた先輩がニンニクを大量に持って帰ってきたのです。これを兵舎で焼いて味噌をつけて食べるのですが、ニンニクは、ご承知のように、食べた本人は何も臭わないのですが周囲の人はたまらないわけです。臭いと文句を言う人を黙らせるにはその人にも食べさせるしかない、そう考えた著者は…。と、まあ、どうですか。面白そうですね。是非4冊とも読んでみて下さい。